

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570408575		
法人名	社会福祉法人大館圏域ふくし会		
事業所名	グループホームかみやま (金山ユニット)		
所在地	秋田県大館市花岡町字前田162番地39		
自己評価作成日	令和1年11月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和2年1月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・家庭的な雰囲気の中で利用者一人一人に寄り添いながら個々の希望や思いを気軽に話せる雰囲気作りに努め、笑顔多く個々を尊重し、安心して暮らすことが出来るよう努めている。
 ・利用者の身体機能にあわせた入浴方法(一般浴・個浴)で対応している。
 ・毎月の行事の中で季節を感じて頂き気分転換に努め生き生きと生活できるように取り組んでいる。
 ・地域の社会資源の活用が多く商店や郵便局、図書館等あり安心して暮らすことが出来る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員と利用者が寄り添いながら互いに尊重し、笑顔のあふれる生活の場となっていることが印象的であった。
 利用者支援では、個々の想いを大事にしており、日常的な外出の機会を設けるよう努めている。また、利用者の変化に対しては常に話し合いと情報共有が徹底されるよう伝達方法に工夫がなされていた。
 近隣にバックアップ施設があり、人的な支援や看護師、栄養士等からの指導を必要に応じて受けられるということが利用者、家族、職員の安心感につながっており、事業所の大きな強みとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいた支援が出来るよう話し合いの場を設け、統一したケアができるよう心掛けている。	理念が家庭的な雰囲気損ねない形で建物内に掲げられ浸透を図っている。 朝の申し送り、月1回のサービス会議で確認され、自分たちの行っている援助内容が理念に沿っているかどうかを常に振り返るよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園との交流(運動会、七夕、散歩等)や地域の祭りに参加したり、避難訓練等を通して積極的に交流している。	運動会や七夕などの行事を通して保育園と交流がある。その他花岡産業祭に参加したり、散髪や買い物、散歩などに出掛け、近隣住民と挨拶を交わしている。手作り作品のボランティアや語り部ボランティアが来訪してくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	グループホームの広報誌を発行して、ホーム内の生活状況等を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で委員の方から、防犯対策としてホームの玄関に鍵を掛けた方がいいと言われ、今年の8月からご家族に連絡して実施している。	会議では事業所の実践状況について、丁寧に説明がなされ、防犯対策として「ホームの玄関に鍵をかけたほうがよい」と提言があったことをご家族、職員と相談し取り入れるなど、同会議を通してサービスの向上に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での情報共有や毎月入居待機者の連絡や広報誌を届けたり、相談して協力体制を築いている。	毎月の入居待機者の報告の他、広報誌を届けたり、市の職員からの情報を提供してもらうなど良好な協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を毎月行い、拘束しないようなケア、言葉使い等取り組んでいる。	身体的拘束廃止委員会を毎月法人や事業所内でも行い、身体拘束を行わないケアを実践している。見守りを重視し入居者本人の行動の自由を制限しないよう心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	神山荘グループの学習会で学んでいる。身体的、精神的にも虐待のないように注意しながら介助している。日々の中で疑問を感じたら、その時に話し合い、虐待のないケアを皆で考えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	神山荘グループの学習会で学ぶ機会がある。以前利用していた入居者がいたが、現在はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退所時や料金改正時は本人や家族に説明し、納得を得て頂くように努めている。不安時はいつでも相談して頂くように伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にはご家族に話を聞くようにしている。玄関にはご意見箱を置いている。入居者からは座談会を開き、意見や要望を聞く機会を設けている。	家族には、月1回の担当からの手紙や事業所だよりを通して支援の経過や通院状況を報告するとともに、面会時や電話等で意見を聞いている。利用者からは日々の暮らしの中で心配事も含めて希望を聞き、行きたい場所、やってみたい事については可能な限り計画・実行されている。	“玄関前の意見箱に希望や意見を出しやすいようアンケート用紙を置く”、または“他の事業所での意見聴取の取り組みを参考にする”など、利用者・家族意見の反映に引き続き取り組むことを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人目標・評価シートを毎年職員一人一人ユニット主任・管理者と面談して記入している。また、年1回は施設長と面談して意見を聞く機会を設けている。	職員は、個人目標評価シートを毎年作成し、ユニット主任・管理者と面談する機会が設けられている。また年1回施設長とも面談し意見交換している。入居者や現場の人間関係をよく知る職員等の意見が尊重され、職員が自由に意見を話せる雰囲気を作られている。また職員の気づきや意見が業務にも反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の諸規定に基づいてグループホームだけでなく、神山荘グループまたは法人の一施設として整備されている。希望すれば法人内を移動することもできる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内での話し合いや神山荘グループでの学習会や職場外の研修会を受講の機会を作っている。受講後は回覧して他職員に伝えて、皆で成長できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームの交流や各種委員会は法人内施設で行っており、サービスの向上に繋がっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居しても落ち着いて過ごすことが出来る様に、本人が使い慣れた物を持参して頂いたり、本人のリズムに合わせて生活して頂くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族や本人の話をよく聞いて対応するように努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を一緒に行ったり、だまっこ作りや餅つき等は入居者に教えて頂きながら一緒に行っている。昔の苦労話等を教えて頂き、共に生活している。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご家族の方には生活状況を伝えている。緊急時には連絡して、通院同行して頂いている。本人の不安時等はご家族に連絡して相談したりしている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からのかかりつけ医や美容室等は入居しても可能な限り継続している。	利用者の友人、近所、親戚が面会に来訪した際には、落ち着いて過ごせる場所をグループホーム内に整えている。 民謡の好きな方など、利用者の趣味を継続していけるよう支援するとともに、家族の協力のもと、馴染みの床屋や美容室、かかりつけ医等との関係継続にも努めている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室で過ごす事が多い入居者にも食事やお茶、ゲーム時には誘って、職員が間に入り、関わりを持つように努めている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	神山荘に入所になった入居者には神山荘に行ったときには話をしたりしている。グループホームだけでなく、神山荘グループで支えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向や要望にはできる限り答える様に取り組んでいる。	利用者側から話さなくても職員の方から側に座り、声を掛け、本人の想いを汲み取るよう努めている。利用者が少しでも楽しんでもらえるよう、家庭的でも話すことのできる環境作りに取り組んでいる。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接時には生活様式や趣味、生活歴等を聞いて、入居しても継続できるように努めている。また入居しても本人から話を聴いて、希望に添える様にしている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日健康状態をチェックして、本人の思いやリズムに合わせた生活ができる様に支援している。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の意見を聞きながら、職員同士で話し合い介護計画を作っている。	担当を決めて本人家族、他の職員からの情報を集約、難しくなっていることや出来る事を細かく確認しプランを作成している。 毎月丁寧なモニタリングを行い、ケース記録を担当が書き、月1回ご家族の手紙で報告、面会や電話で意見を聞き、ケース検討会議で現計画の妥当性を話し合い次の計画作成に繋げている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子で変化があったときは日誌に記入し、また申し送りや伝達している。また、月の最後には本人の状態をまとめとしてケース記録に記入して介護計画の見直しに繋げている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	語り部や工作・歌等の二組のボランティアが毎月訪問され、歌や手遊び、季節を感じる工作を行い楽しまれている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居する前からのかかりつけ医や歯科医等を継続している。	本人・家族の希望に応じかかりつけ医を受診している。受診には家族や職員が付き添い、個々の通院ノートを活用し最近の状態を細かく伝えられるようにしている。受診結果についてはご家族のスタイルに合わせて電話や手紙で伝えている。 地元の薬局とも相談できる関係にあるほか協力医とも連携が取れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バックアップ施設神山荘の看護師と連絡を取り、健康診断や感染症の対応、予防接種等を行っている。また管理者が看護師資格を持っている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した時は家族とともに病院の看護師や医師、また必要時には相談室の方と話し合い、退院後も安心して生活できるようにしている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調が重度化したり、介護度が重くなった時はご家族に相談して病院や特養の申し込みをして頂き、安心して生活できる場に繋げている。	本人、家族、職員で話し合いながら、出来るだけホームでの生活を継続できるよう支援している。食事がとれなくなるなど重度化した際は、バックアップ施設に早めに相談し、受け皿を確保している。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	介護・看護マニュアルを活用している。感染症対応のシュミレーションやガウンテクニック等を定期的に行い対応できるようにしている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行い、年に一度は消防署員や地域住民にも参加して頂いている。	近隣の工場、町内会、地域の方に参加してもらい総合避難訓練を行い、実際に利用者の避難を手伝っていただいた。またその際は、車イスの使い方や利用者への関わり方の勉強会も実施している。災害時には、工場と町内会長には緊急時自動通報がされるなどホットラインも確立しているとのこと。備蓄品については一覧表で非常食の賞味期限が一目でわかるようにし常時点検をしている。また法人で「災害時駆けつけ経路」を作成したり、各部屋に「避難誘導済」を知らせる検索ライトを設置するなどの対策が取られていた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の発言を否定せず傾聴するように努めている。	利用者を尊重しプライバシーを損ねないよう、他の方がいる場面でのトイレ誘導の声掛けの仕方を工夫したりとプライバシーの確保の為の具体的な対応が確認できた。大きな声でなく個々を大切に、一人ひとりの発言を否定せず傾聴するよう努め、言葉の語気や語調に留意し利用者の自尊心を傷つけないよう声掛けを行っている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重して自己決定できるような声掛けを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出や日用品、おやつ等購入の希望があればできるだけ一緒に出掛けて購入している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思を尊重しながらさりげなく身だしなみには注意を払い、声掛け支援を行っている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや片付け等は出来る限り一緒に行っている。また、好みのものや大きさ等は本人に合わせている。食事のメニュー等は神山荘の栄養士が管理し、食事作りも神山荘で行っているが、時々グループホームでどら焼きやだまっこ等を作って食べている。	食事は法人内の栄養士が献立を作り、調理済みの物を職員と利用者が盛り付けている。利用者は会話をしながら可能な範囲で下膳や食器拭きを楽しんで行っている。食後の口腔衛生もしっかりと行われていた。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は本体の栄養士が管理し、カロリーやバランスは整っている。水分は毎食事時以外、9時、14時、16時に本人の好みの物を飲んで頂いている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを入居者に合わせて行っている。就寝時には義歯洗浄剤を使用して清潔を保つようにしている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を付けて、排泄間隔やその人の表情を見ながらトイレ誘導を行い、トイレで排泄できるようにしている。	排泄チェック表を利用しながら個々に合わせたトイレ誘導をしている。自宅で紙おむつだった利用者が声掛けとトイレ誘導により紙パンツになった事例について確認できた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食後にヨーグルトを食べて頂いたり、毎日牛乳を飲んで頂いたり、運動を行い、自然排便を促している。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	立位不安定で車椅子を使用している方には個浴槽に安心して入浴できるように入って頂いている。	利用者の希望や体調に配慮しながら、入浴を楽しめるよう民謡の音楽を流すなどの工夫をしている。床暖が入っている為いつでも暖かく入浴できる。その時によって入浴を好まない方は、声掛けの時間をずらすなどして柔軟に対応している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースに合わせて、自室やホールのソファで自由に休息して頂いている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の通院ノートや薬の説明ファイルを活用して、薬の作用、副作用を理解して、状態変化した時は通院して医師に繋げている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居する前の生活や趣味等を聞いて、入居しても続けられるように支援している。食器拭きや洗濯物干しやたたみ、裁縫、畑仕事等して頂いている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの楽しみ(桜、バラ、藤、紅葉等)に外出したり家族と一緒に敬老会をホームから出てホテルで行ったり、希望があれば買い物に出掛けたりしている。	出掛けたい場所や食べたいもの等を普段の会話の中で聞きとり、外出支援を行っている。 大人数での外出は法人施設内の福祉車両やマイクロバスを借りて出掛けている。 近隣の散歩の他にも、紅葉狩りなど季節ごとに外出の計画を立て実施する事ができている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は現在神山荘の事務で管理しているが、希望時はいつでも使える体制である。本人が持っている人もいます。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望があれば対応している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、臭い、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるように四季折々のレイアウトをしている。臭い等不快な感じを受けないよう、24時間の換気や掃除等心掛けている。	家庭的な雰囲気を大切にリビングや廊下も利用者の生活空間だという意識を常に持ち、壁には貼り物を貼り過ぎないようにしている。 角の壁は季節がわかるよう装飾されている。 ウイルスや臭い対策のためアロマや最新の除菌脱臭機を設置している。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは自席の他、ゆっくりくつろいで頂けるようにソファを置いている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自宅を使い慣れた布団や衣装ケース、タンス等を持参して頂き、自宅でいた時とあまり環境を変えないようにしている。	「自分の家」として利用してもらうためにテレビやラジオ、冷蔵庫など利用者のお気に入りのものを配置し、思い出の物、大切な物に囲まれたその人らしい居室作りを心掛けている。自分でできる方は居室の掃除も行っているとのこと。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物を自分で干すことができるように自室に物干しを置いたり、タンスの整理が出来る様に名前をつけたりしている。		